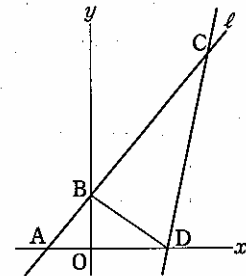


数学を勉強しているとき、様々なアルファベットが使われています。

たとえば、数直線や座標平面をかいた時には、原点をO(オー)とします。なぜ、AやBではなくOなのでしょう？

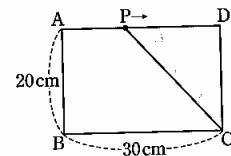
実は、英語の頭文字からきているのです。

(1) 原点をOとするのは、原点：origin(オーリジン)の頭文字からきています。円の中心をOとするのもこれと同じです。(英語で中心は、中心：center ですので、頭文字Cを使う場合もあるようです。)

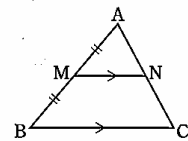


(2) 「右の図の直線は...」のように、直線にはよく l が使われます。これは直線：line(ライン)の頭文字からきています。

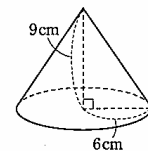
(3) 「点Pは長方形の辺上を動く点で...」のように、点にはよくPが使われます。これは点：point(ポイント)の頭文字からきています。



(4) 「辺の中点Mを通る平行な直線が...」のように、中点にはよくMが使われます。これは中点：middle point(ミドル・ポイント)の頭文字からきています。



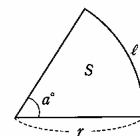
(5) 長さや面積、体積の公式では、長さの場合は「 $l = \dots$ 」、表面積や面積では「 $S = \dots$ 」、体積では「 $V = \dots$ 」を使います。これは、長さ：length(レングス)、表面積：surface areas(サーフェス・エアリアズ)、体積：volumes(ヴァリュムズ)の頭文字です。(surface areasは空間での表面積のことをさします。平面図形での面積はareasですので $A = \dots$ と表記することもあるようです。)



$$V = \frac{1}{3}Sh$$

$$V = \frac{1}{3}\pi r^2 h$$

(6) 「円周の長さの公式は、 $2\pi r$ 」のように、半径を表す文字には r が使われます。これは、英語の半径：radius(レイディアス)の頭文字からきています。



<円周率> 円周率はギリシャ語で周囲を意味する περιφέρεια - 英語表記では periphery(パリファリ) - の頭文字をとったものです。

$$l = 2\pi r \times \frac{a}{360}, \quad S = \pi r^2 \times \frac{a}{360}, \quad S = \frac{1}{2}lr$$

(7) その他にも、高さ：height(ハイト)の頭文字をとって「高さ h 」、距離：distance(ディスタンス)の頭文字をとって、「2点間の距離を d cm として...」などと使われます。